

移住女性夢のコーヒー店

備長炭で焙煎味まろやか

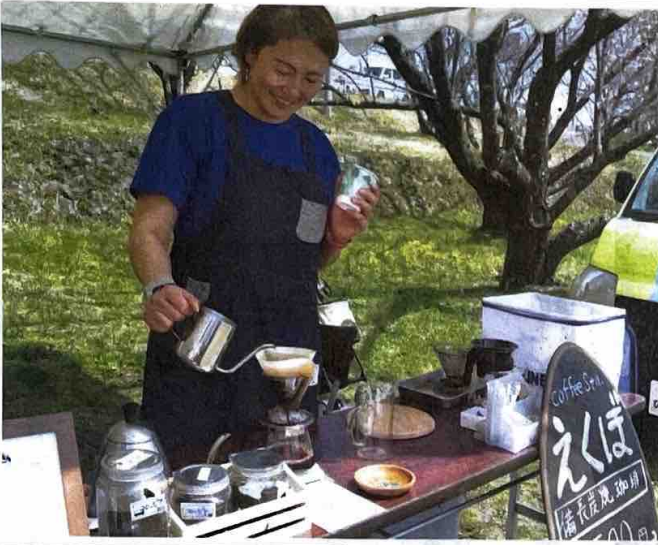
東洋町

【室言】東洋町に移住し、担い手確保などを目的に設立された特定地域づくり事業協同組合で働く女性がこのほど、露店やイベント出店で営業するコーヒー店を開業した。町産の備長炭で焙煎した豆と室戸海洋深層水を使用したこだわりの1杯を提供。長年温めていた夢をかなえ「町の新たな名物にした」と意気込んでいる。

青森市から移住してきた中川じゅんさん(43)は白浜。約10年間コーヒーチェーンで勤務した経験などから「炭火で焙煎したコーヒー店を開きたい」と夢を描き、2022年冬ごろから

製炭業が盛んで、趣味のSUP(スタンドアップパドルボード)ができる海がある移住先を探していた。

同時期、町では移住者をマルチワーカーとして雇い、町内のさまざまな事業



念願のコーヒー店を開業した中川じゅんさん(東洋町野根丙)

こうちワイド kochi wide

者に派遣する「町特定地域づくり事業パツクン協同組合」が設立され、従業員となる移住者を募集。インターネットで求人を見つけた中川さんは「店を開くまでにいろいろな経験ができた。東洋町の海もきれいで、私にぴったりだった」と即応募。採用されて22年7月に移住した。

同組合では製炭業者にも派遣されて炭焼きにも携わり、「火持ちの良さなど土佐備長炭の特性を学べ、焙煎のイメージが膨らんだ」という。移住後、コーヒーコーディネーターの資格を取得し、焙煎方法を研究するなど開業準備を進めた。

店名は「珈琲St.a.えくぼ」。St.a.はステーションの省略形で、立ち寄った人が笑顔になる場所に「との思いを込めた。先月末に同町で行われた野根川さくら祭り会場で念願の初営業。

中川さんによると、炭火で焙煎したコーヒーは苦みや酸味が少なくまろやかな味わいになるそうで、住民からは「飲みやすくておいしい」「ブラックでも苦くない」などの声が上がった。

「福利厚生がしっかりしていて副業も自由ができる

組合のおかげで、不安なく過ごせて夢もかなえられた」と中川さん。今後も組合で働くが「ゆくゆくはSUPができ、コーヒーも飲める店舗を持ちたい。町の観光を盛り上げる」と笑顔で続けた。コーヒーは1杯500円で、今後は町内の民宿駐車場や

町内外のイベントなどに出席する。営業日は同店のインスタグラムで確認できる。

(板垣篤志)